

私の人生を変えた債券先物

金融アナリスト

久保田博幸

私は 1982 年に水戸証券会社に入社し、1984 年まで支店で研修を行っていました。研修後は本社勤務となり、債券部に配属されました。債券部といっても何をしている部署なのか皆目見当が付きませんでした。最初は債券の募集の業務を担当したのですが、ここで債券の利回りや価格の計算などの基礎を叩き込まれました。さすがに 1 年程度経過して、何となく債券の世界が見え始めたのですが、募集関係のセクションが募集と投信に分離されたことで、今度は募集から離れ投信の世界に移りました。とはいってもあくまで支店の販売支援のようなかたちの業務が担当でした。そんな折りに耳にしたのが、日本で債券先物がスタートするという情報でした。

新しいもの好きという性格も影響したのか、この債券先物にたいへん関心を持ったのです。日本語で書かれた数少ない文献を入手し、会社を休んで東証主催のセミナーにも会社にだまって参加しました。この債券先物に携わることができないか。そのときはディーラーになりたいというより、とにかく債券先物に関わりたかったのです。

水戸証券でも債券先物は取り扱うことがわかりました。ところがバックのシステム設計が間に合わないことがわかったのです。それを手作業で何とかしようとしていたようですが、そこでたまたま部署に配備されていたオフコンを使うことを私は思いついたのです。大学時代に NEC の PC8001 を購入し、簡単なプログラムは書けました。それを元にして、売買伝票作成、売買管理、ポジションの管理、さらに現物債から求められる先物の理論価格が求められるようなものを含めて、バックのシステムを個人でこつこつと構築したのです。上司からはやっても良いが、使うかどうかは結果を見て判断すると言われたのですが、そのシステムを無事構築し、債券先物の上場日に間に合ったのです。1985 年 10 月 19 日に東京証券取引所に日本ではじめての金融先物市場である長期国債先物取引が上場されました。

新たに変わった本部長にその功績が認められたことに加え、当初の債券先物の急落（日銀の短期金利の高め誘導による）に巻き込まれてしまい、なかなか利益が出なかったこともあり、当初の担当ディーラーの入れ替わりとして、相場分析に長けた課長と私がディーラーとして抜擢されました。それは債券先物が上場してから 1 年後の 1986 年 10 月のことでした。

当時の債券先物は取引所と直通の黒電話を使って売買を行っていました。電話の相手は

実栄証券の担当者です。この黒電話を通じて私の債券ディーリングがスタートしました。現物債は日本相互証券の担当者とこちらも電話を通じて行き、先物と現物の両方のディーリングを担当しました。もちろん委託注文などを含め、注文の発注は私が担当したのです。つまり電話番号ですね。

課長は株の取引経験はあったものの債券は初めてでした。なかなか癖のある人ではあったのですが、研究熱心であり、相場観はするどく、チャートを手書きし、テクニカル分析にも通じていました。チャートの分析などはこの課長から教わりました。最初の年度、つまり1986年10月から1987年3月末の私の債券の売買益はマイナスとなったのですが、その後は債券ディーラーとして通算約14年の間、収益でマイナスとなる年はなかったのです。これには人にも恵まれたことも大きく、この経験が私の人生も大きく変えることになったのです。

黒電話を通じて実栄証券の人とも仲良くなり、あらためて相場の世界を知りました。本当は証券会社と実栄証券の担当者が仲良くしてはいけなかったようですが、そこはお互い人ですから、仕事をはかどらせるには仲良くすることにしたことはありません。その実栄証券の担当者を通じて、他の銀行や証券会社のディーラーと知り合うことができました。いわゆる他社との情報交換が始まったのです。債券相場も今とは違い、非常にダイナミックに動いた時代でもありました。

ディーラーとしてだいぶ油ものり始めたころ、インターネットが出現しました。当初はニフティサーブのフォーラムなども出来ましたが、私はやや引込み思案のところもあり、積極的には参加しませんでした。そんな折り、個人のホームページがぼちぼちと現れ、これに関心を持ちました。自分の趣味か何かでサイトを立ち上げようとしたのですが、他の人との差別化も考えると、テーマにしたのが仕事の債券市場でした。1996年頃に「債券ディーリングルーム」というサイトを立ち上げました。ここに毎日の債券先物を中心とした債券市況をアップしていったのです。しかし、市況をただ書くだけではつまらないので、思いついたのが会話形式で市況をコメントするというものでした。日経新聞のコラムに二人の対談形式で市場のことを書いていたのを参考にしました。これで生まれたのが「牛さん熊さんの本日の債券」です。

この「牛さん熊さんの本日の債券」の登場をきっかけに、オフ会等を催し、債券市場を中心とした大きな人的ネットワークができました。そのネットワークをきっかけとして、幸田真音さんのベストセラー小説「日本国債」に久保田ならぬ久保井が登場したのです。その後、債券ディーリングの全盛時代は終わり、私もディーラーから今度は債券アナリストという立場で債券市場を見るようになりました。その後の紆余曲折はあったものの、債

券市場から離れることはなく、ずっと「牛さん熊さんの本日の債券」も書き続けて現在に至ります。現在では「牛さん熊さんの本日の債券」や債券に関わるようなコラムなどをメルマガなどで書かせていただき、それが生活の糧となっています。まさに債券先物が私の人生を大きく変えたといっても過言ではないのです。本当に債券先物には約 30 年間、お世話になっております。